



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1923号)

令和元年8月28日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ハタハタ・アカガレイ・大型クラゲ等に関する情報について (令和元年度底びき漁期前調査結果)

令和元年8月5～6日に但馬沖水深180～350mで、同19～21日に隠岐北方～大山沖水深180～240mで、漁業調査船「たじま」によりトロール網試験操業を実施しました。(図1、表1)。結果の概要は以下の通りです。

① ハタハタに関する情報

- ・大山沖水深240m、但馬沖180mで100kg/網前後の入網がありました。(表1、図2) (但馬沖は8/5の情報)
- ・水深240m定点以浅での1曳網当たり入網重量は隠岐北方～大山沖の平均で18.5kg/網で、前年(59.7kg/網)および過去10年平均(73.0kg/網)を大きく下回りました。*(図3)

※今期、隠岐北方～大山沖では、ほぼ全天曇りの中での調査となり、過小評価の可能性がります。

- ・漁獲物は、隠岐北方～大山沖では2才魚(体長16cm前後)以上の比率が高かったですが、大山沖・但馬沖では1歳魚(14cm前後)が主体で、全体として1才魚主体(1才>2才>3才)の年齢組成でした。(図4)
- ・大山沖の漁獲物は胃内容物の量が多く、隠岐北方・但馬沖ではわずかでした。

以上のことからハタハタの秋漁(9～10月)について、安定した漁場は大山沖を中心に形成されるでしょう。漁獲物は1才魚が主体ながら隠岐東方などでは2才魚以上も混ざると見られます。漁獲量は前年および近年の平均を下回るでしょう。

② アカガレイに関する情報

- ・アカガレイの入網は但馬沖でまとまって認められました。(表1、図6)
- ・但馬沖～大山沖を平均した入網重量は20.3kg/網で前年(24.8kg/網)および過去10年平均(29.7kg/網)を下回りました。(図7) 水深300～350mに限っても傾向は同じでした。
- ・但馬沖では体長30cm以上の大型メスは水深300(～310)mを中心に入網しました。体長15～30cmの中小型個体は水深210mに分布し、240、270mにはわずかでした。(図8)

以上のことからアカガレイの秋漁(9～10月)について、漁場は但馬沖水深300～350mを中心に形成されるでしょう。漁獲量は前年および近年の平均を下回るでしょう。

③ 大型クラゲ等に関する情報

- ・全海域でエチゼンクラゲの入網が認められました(最大で10個体/網、80kg/網)。(表1、図9)傘径80cm以上の大型個体の入網は3網に1回程度で、1～2個体/網の入網でした。小型個体(傘径30～60cm)は隠岐北方～大山沖においてほぼ全ての点で入網しました。
- ・現状、操業に支障はないと思われませんが、沖合域に分布が認められていることから、引き続き以下より情報収集に努めて下さい。①JAFIC; <http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>、②日本海区水産研究所; http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/kurage/kurage_top.html、③但馬水産技術センターだより(クラゲ情報)
- ・全域でサルパ(クラゲ状の透明なホヤの仲間)の出現が認められ、袖網に多くからみましました。

④ その他の情報

- ・ズワイガニの新規加入の減少が懸念されており、水がに、若齢ガニ、セコがにの混獲死亡回避が大変重要です。ズワイガニが多く混獲される海域(隠岐東方～大山沖の水深180～190m、但馬沖水深300～350mなど)では「混獲回避漁具」や「吊り岩」を有効活用し、ズワイガニの保護に努めて下さい。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター(担当：大谷)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ： <http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>

令和元年度底びき漁期前調査結果 資料

1)調査の目的

底びき解禁前のハタハタ、アカガレイ、エチゼンクラゲ等の分布、体長組成等に関し、情報の収集と提供を行う。

2)調査日時

令和元年8月5～6日(但馬沖)

令和元年8月19～21日(大山沖～隠岐北方)

3)調査海域

但馬沖:水深 180～350m海域

大山沖～隠岐北方:水深 180～240m海域(図1参照)

4)使用船舶

兵庫県 漁業調査船「たじま」(199トン)

5)調査内容

①トロール試験操業

図1に示した計18点において、底びき試験操業を実施。
使用漁具:着底トロール網、袋網16節、袖先間隔約24m、間口高さ約2.9m、曳網方法:3knot、30分(約1.5マイル)曳き。

②海洋観測

定点におけるASTDによる海底までの水温、塩分観測と、網に取り付けたセンサーによる海底水温の計測を実施。

③魚探反応の収録

トロール曳網時の魚探反応を収録。

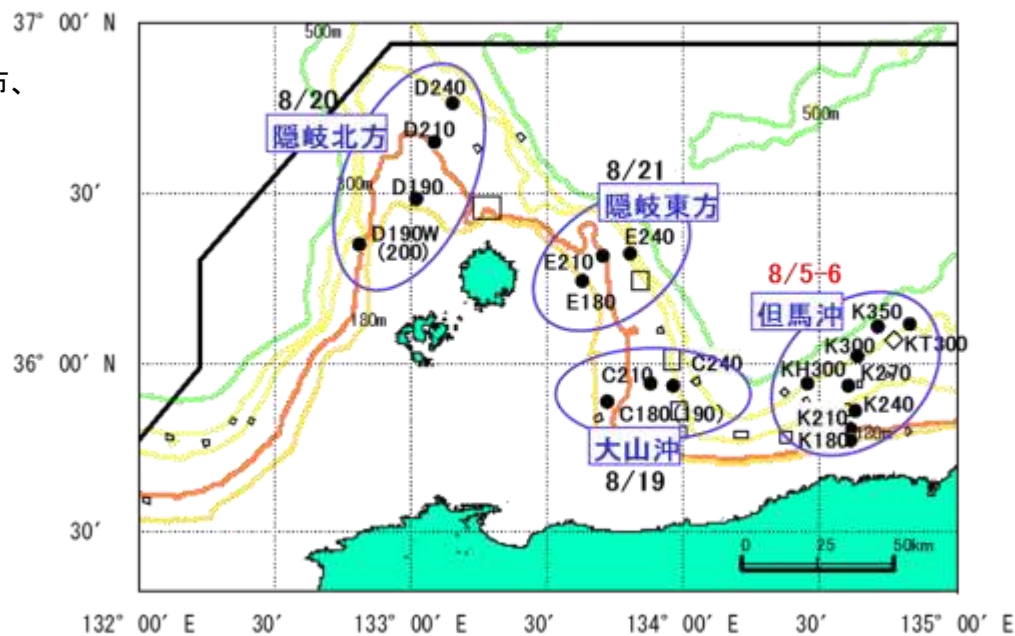


図1 調査海域図

表1 定点別魚種別入網状況(2019年)

月日	曳網開始時刻	エリア	操業点番号	平均曳網水深	海区番号	表面水温(°C)	海底平均水温(°C)	魚種別入網重量(kg)						
								ハタハタ	アカレイ(マガレイ)	ソウハチ(イ)	ヒレグロ(ヤマ)	ハ ⁺ イ類	ヒ ⁺ 類	大型クダ
8/6	8:04	但馬沖	K350	350	8086	27.0	0.9	1.6	17.0	0.0	0.0	0.7	4.9	0.0
8/5	17:26		KH300	307	8191	27.7	1.2	0.4	43.4	0.0	0.0	2.8	5.0	22.0
8/6	6:22		KT300(310)	310	8086	27.5	1.1	0.6	76.5	0.0	0.0	2.4	1.4	0.0
"	9:45		K300	305	8089	26.8	1.3	0.1	63.9	0.0	0.0	1.1	0.5	0.0
8/5	15:55		K270	271	8097	28.1	1.5	0.4	4.3	0.0	0.2	1.0	0.2	0.0
"	14:05		K240	234	"	27.7	2.0	0.8	3.3	0.0	0.1	5.3	0.2	0.0
"	11:56		K210	211	8098	28.3	2.9	4.6	24.6	0.1	7.5	11.6	0.3	0.0
"	10:22		K180	184	"	28.1	4.6	134.1	1.2	0.1	0.5	0.3	0.0	15.0
8/19	12:49	大山沖	C240	242	8291	26.5	3.5	92.8	1.9	0.4	0.3	7.8	0.2	13.0
"	14:14		C210	215	"	26.7	5.0	13.6	16.3	1.6	2.3	16.9	1.2	6.0
"	16:19		C180(190)	191	8294	26.3	5.8	8.2	14.1	2.7	7.5	11.8	3.7	0.6
8/21	10:14	隠岐東方	E240	239	8285	26.4	3.6	1.5	1.4	0.1	1.0	1.7	0.0	0.0
"	8:30		E210	204	"	26.5	5.6	5.2	0.3	0.2	2.2	4.4	0.0	80.0
"	6:31		E180	185	8288	26.6	7.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	12.0
8/20	13:35	隠岐北方	D240(230)	228	8378	27.0	2.5	-	-	-	-	-	-	-
"	11:20		D210	203	8379	26.8	3.3	0.3	0.0	0.0	2.4	2.4	0.0	2.1
"	9:18		D190	184	8387	26.7	3.9	50.7	2.2	0.2	53.7	13.5	0.1	6.0
"	7:06		D190(200)W	197	8484	26.9	4.1	0.6	0.0	1.1	7.9	30.7	0.8	30.0

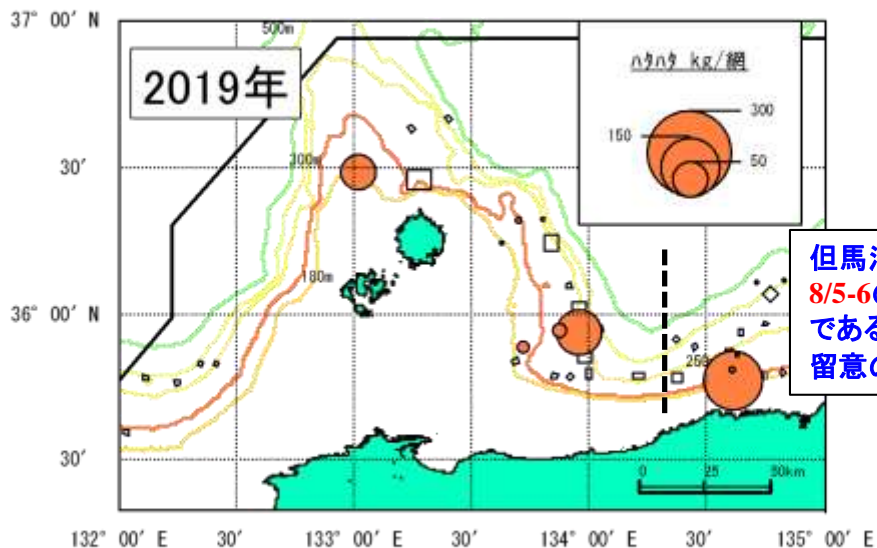


図2 ハタハタ入網重量の分布(kg/網)

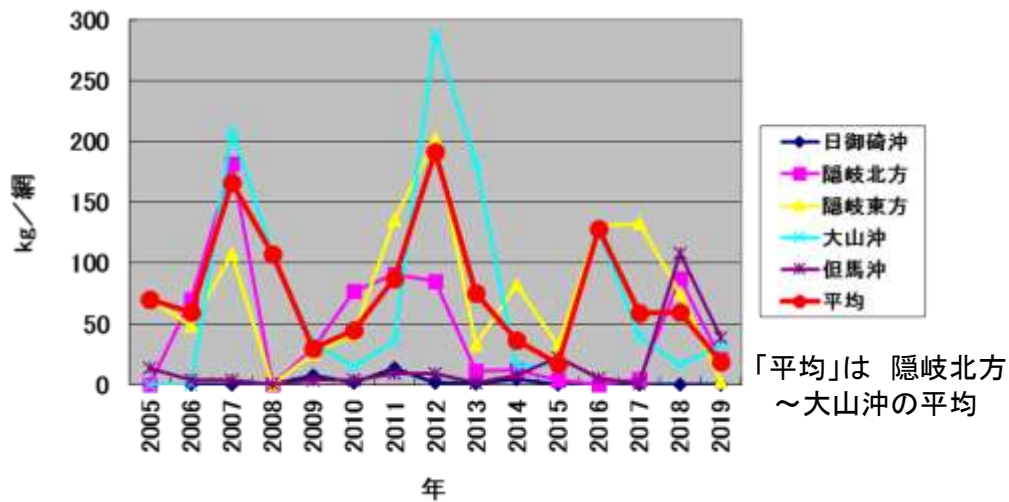


図3 エリア別 1 曳網当たりハタハタ入網重量
(曳網水深166-255m)

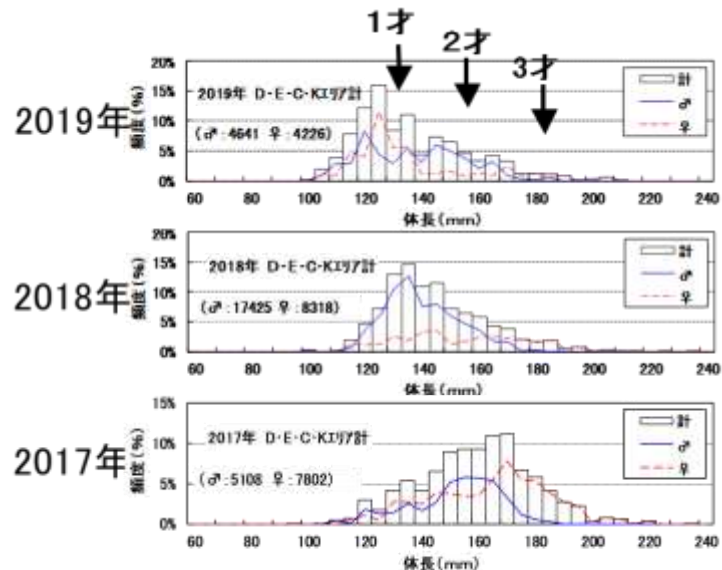


図4 近年のハタハタ体長組成
(隠岐北方～但馬沖)

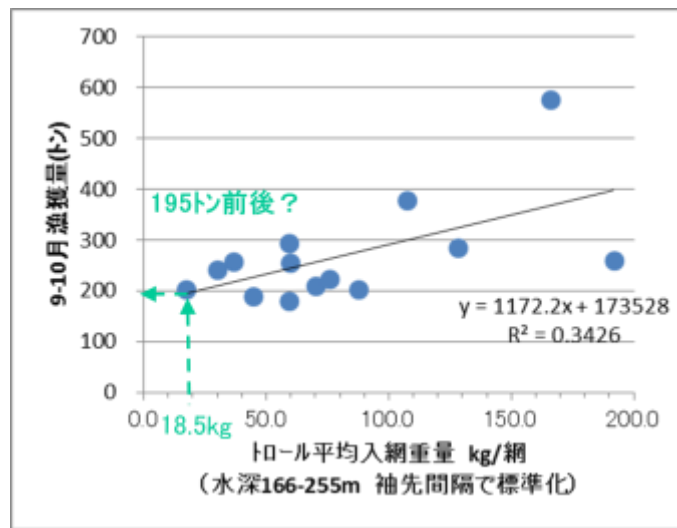


図5 調査1 曳網あたり入網重量と
9～10月のハタハタ漁獲量の関係
「平均入網重量」は隠岐北方～大山沖の平均

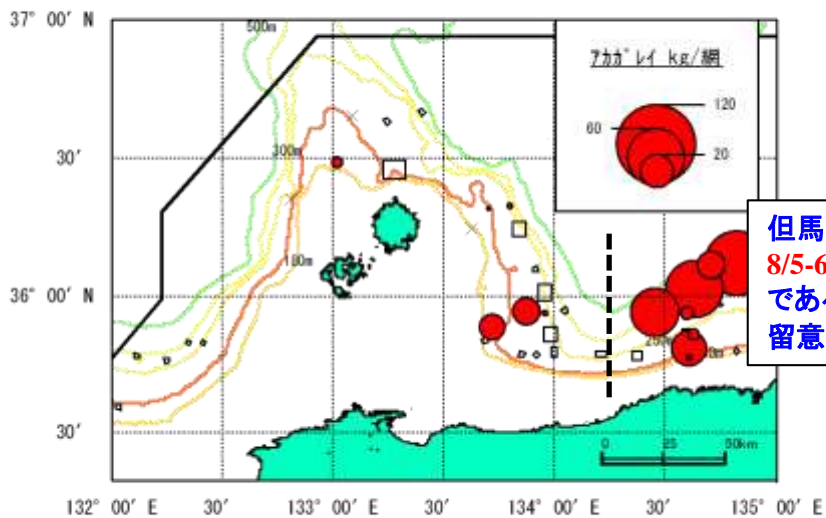


図6 アカガレイ入網重量の分布 (kg/網)

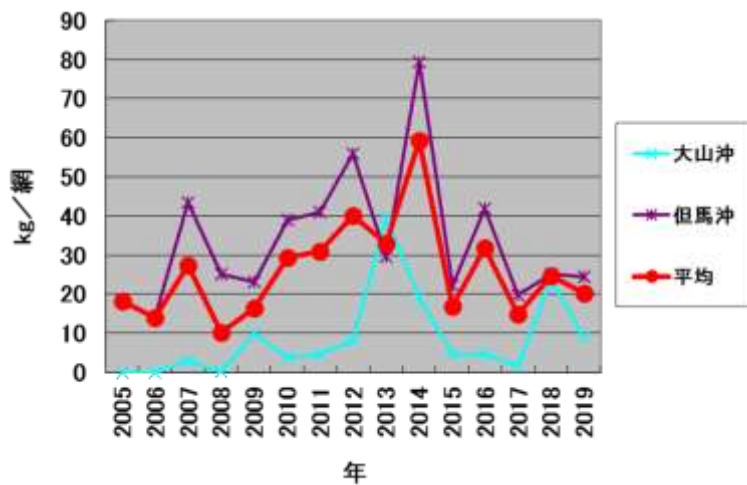


図7 エリア別 1 曳網当たりアカガレイ入網重量

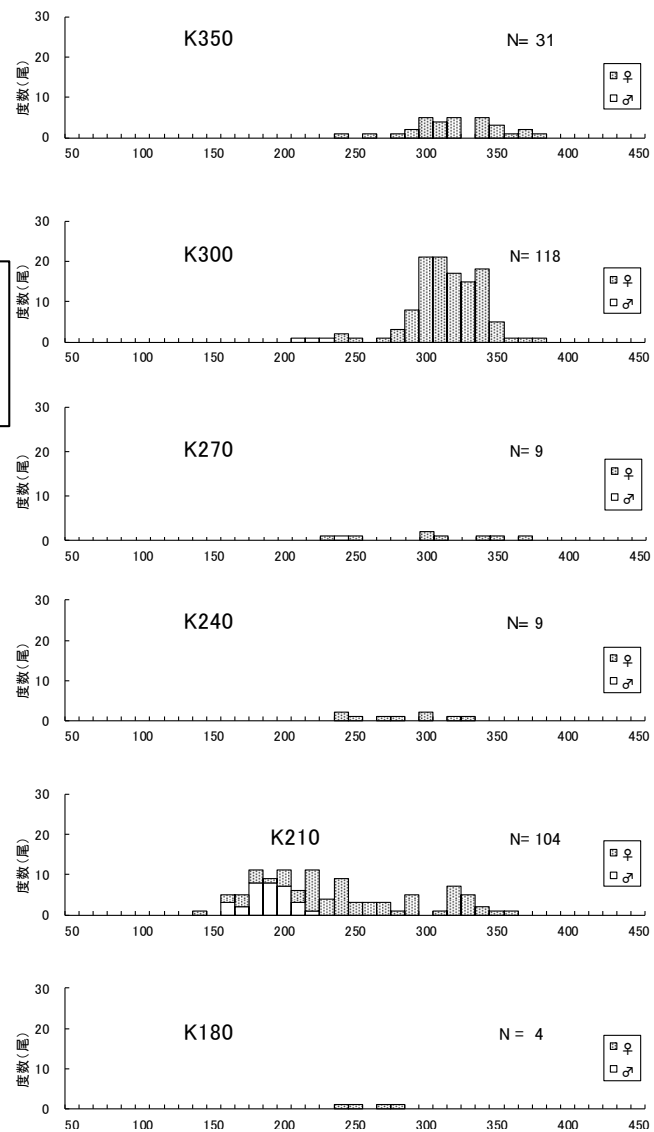


図8 定点別アカガレイ体長組成(香住沖)

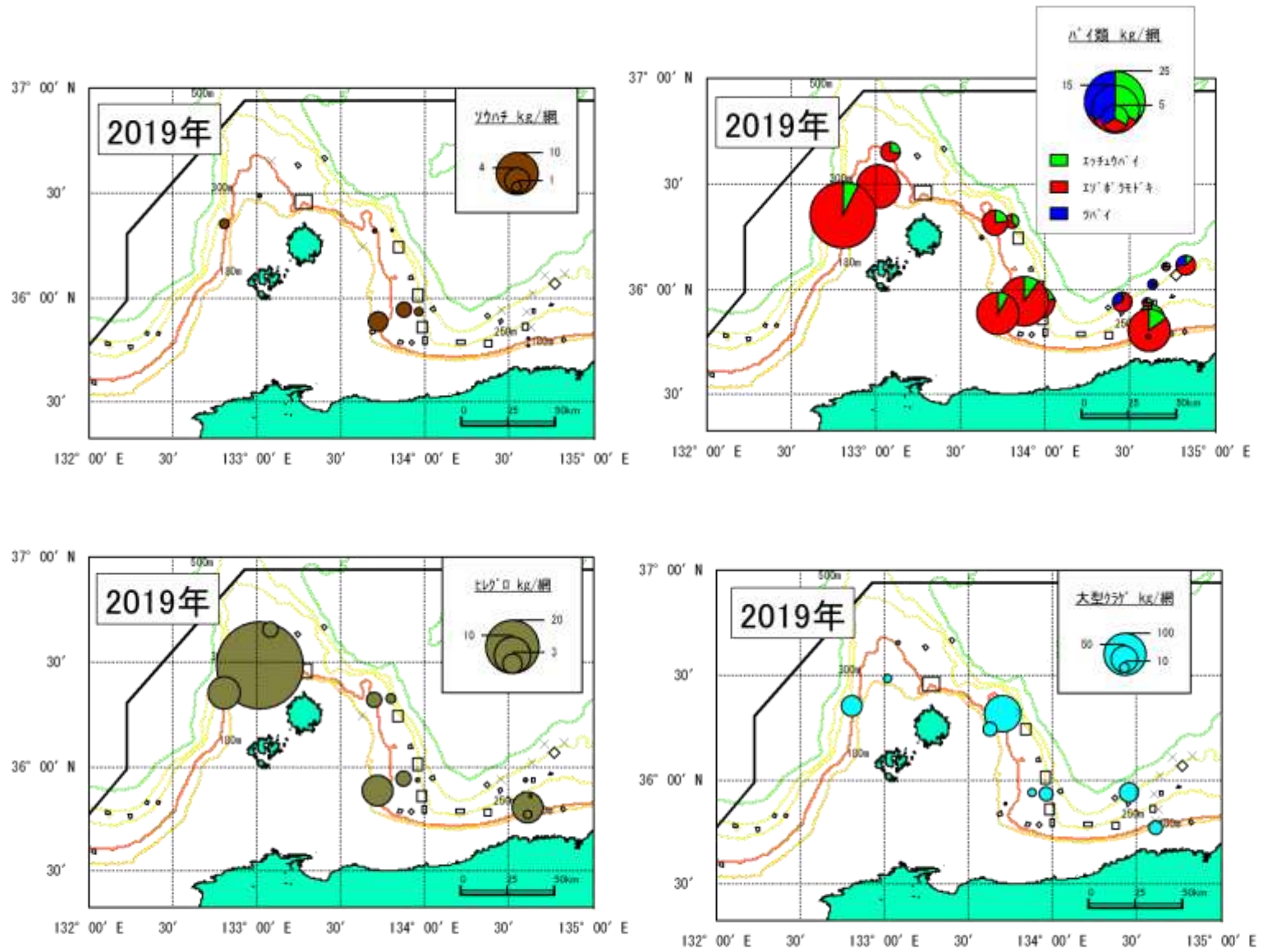


図9 その他主要魚種等の入網重量の分布(kg/網)